



大原中だより

校 訓 「歴史を拓く」

学校教育目標 はつらつとした生徒、地域に輝く学校

ホームページ : <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397

FAX 048-835-1357

第 4 号

令和 5 年 7 月 3 日

『言葉は心の鏡』 ～『美しい言葉は、美しい心』～

校 長 岡村 洋彦

日本には昔から『言霊（ことだま）』という言葉があり、言葉は魂をもっていると信じられてきました。『魂』とは、『心がある』ということです。私たちから普段発せられた言葉は、周りの人に影響を及ぼす不思議な力があると考えられているのです。確かに日常生活を振り返ってみると、感動したことや前向きな気持ちを言葉にして伝えると、その感動を広げたり、さらに前向きな姿勢を身に付けたりすることができます。また、今の自分の気持ちを確認することにもなります。思っているだけだと曖昧に感じることで、表現するとはっきりとし、確かなことにつながります。さらに、表現した言葉は、自分や周りの雰囲気に戻ってくるものです。だからこそ、普段から優しい思いやりのある言葉を使わなくてはならないのです。相手を傷つけるような言葉は、自分を傷つけていることと同じになります。

以前ある学校の学級活動で「フワフワ言葉」と「チクチク言葉」について学習していました。

「フワフワ言葉」とは、「ありがとう！」「大丈夫？」「いいね～」等の相手のことを思って言う温かい言葉のことです。逆に「チクチク言葉」は相手の心を傷つける冷たい言葉のことです。相手に投げかけた言葉はいつかブーメランのように自分に返ってきます。誰かに、優しい「フワフワ言葉」を使っていれば、いつか自分にそのような温かい言葉が返ってくるはずですが、逆に、相手に冷たい「チクチク言葉」を使っていれば、それもいつか自分に返ってきます。

子どもたちには「もし自分が言われたらどんな気持ちができるだろうか？」と自分のこととして受け止め、是非、相手の気持ちになって、考え、行動できる「思いやりの心」を育てていきたいと痛感しています。そのためには、学校、家庭、地域が一体となって取り組むことが不可欠です。

子どもたちの身近にいる我々、教師、保護者、地域の方等の大人が、よい見本となる必要があります。デジタル社会が発展し、互いの顔が見えにくくなっている今だからこそ、自分の心に感じた、明るくきれいな感情を素直に言葉に表し、みんなが楽しく温かい雰囲気の中で過ごせるようにするとともに、自分の表現した言葉が、大きな力をもっていることを忘れずに、言葉を大切にしていきたいものです。

最後に、作者不詳ながら北原白秋の詩といわれる「ひとつのことば」という詩を紹介します。

ひとつのことばで	けんかして	ひとつのことばで	なかなかおり
ひとつのことばで	頭が下がり	ひとつのことばで	心が痛む
ひとつのことばで	楽しく笑い	ひとつのことばで	泣かされる
ひとつのことばは	それぞれに	ひとつのこころを	もっている
きれいなことばは	きれいな心	やさしいことばは	やさしい心
ひとつのことばを	大切に	ひとつのことばを	美しく

1学期も残すところ1ヶ月を切りました。1学期の締めくくりと同時に充実した夏休みを迎えるために、これまで同様、ご家庭のご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

